

## 夢の火種を

ライトノベル作家／シナリオライター

**松山 剛 氏 (高校48期)**



1996年 立川高校卒業  
2000年 中央大学法学部卒業  
2007年～ライトノベル作家  
2021年 81プロデュース・TOKYO FM主催『オーディオドラマ・アワード』最優秀賞

### 【立高時代の思い出】

新聞委員会と美術部。ほかにも警備とかアーチとかいろいろやっていて、いわゆる『小屋人』でした。途中から新聞委員会の活動場所が第二生徒相談室に移り、放課後はそこに入りびたってカップラーメンなんかを食べながら編集会議に参加していました。授業中に「×切ヤバイ」と立高新聞の原稿を書いている、数学の先生に怒られたのは良い思い出です(先生ごめんなさい)。



『雨の日のアイリス』  
(電撃文庫)  
私の代表作です。



『君死にたもう流星群』  
(MF文庫J)  
『夢』がテーマの作品。

### 【作家になるまで】

昔から文章を書くのが好きだったので、中学生の頃はひそかに小説家になりたいと考えていました。ただ、小説家になるのは難しいとだんだんわかってきて、自分でもよく考えずに当時は諦めていました。

高校時代も、あいかわらず文章を書くのは好きだったので、立高新聞の原稿を書いたり、趣味の掌編小説を載せたりしていました。いま思えば、諦めたつもりでも、結局は夢を捨ててきていなかったんだと思います。

進路選択の際に法学部を選んだのは、当時「法とは何か」という本を読んで感銘を受けたことがきっかけです。まさか小説家になれるとは思っていなかったの、そちらの夢は進路選択の際には考えていませんでした。そもそもどうやったら小説家になれるのかも、当時はよく分かっていなかったんですね。

卒業後は、弁護士志望ということで、司法試験の勉強をしていました。朝から晩まで法律の勉強をして、夜に息抜きで小説を書くという日々。結局いつも何か書いていたように思います。ただ、せっかくだからとそれを小説の新人賞に応募していたら、何年かして賞をいただくことができ、デビューが決まりました。夢が叶った瞬間です。



『LUNARIA(ルナリア)』  
(ビジュアルアーツ/Key)  
最近ゲームシナリオのお仕事もしています。

### 【夢の火種を】

もし、いま夢を持っている方がいらっしゃいましたら、ぜひ、その夢を大切にしたいです。私自身、何度も夢を諦めようとした時期がありましたが、中学のときも学級通信に詩を載せたり、高校の時も新聞記事を書いたり、大学卒業後も休憩時間に小説を書いたりして、火種のように、夢がずっと胸の奥底でくすぶっていました。

夢が叶うかどうかは、正直誰にも分かりません。ただ、もしそれが本気の夢なら、人生のどこかで、必ず向き合う瞬間が来ます。今は、いろいろなことで忙しかったり、さまざまな事情ですぐに目指すことができなくても、どうか、夢の火種を消さないでください。その火種が、あなたの人生を熱くすると思います。



『君は優しい流星群』  
オーディオドラマで賞をいただきました。  
スマホから無料で聴けます！

